

昭島市立清泉中学校 令和7年度 学校経営方針

令和7年4月1日

昭島市立清泉中学校長 佐藤 晴美

I はじめに（基本理念）

- Doing から Being へ
～あなたが何かできるから、何かをするから大切なのではなく、あなたがここにいてくれること それ自体が大切なのです～
- 言葉を大切に ～誰にとっても気持ちのいいあいさつが交わされ、「あったか言葉」「前向き言葉」が
あられる～
- 生徒はもちろん、教職員、保護者も「清泉中 大好き！」に
- 学校経営は、教育目標の実現を目指し、生徒の可能性を信じ、よさ（強み）と課題を明確に
～その課題を踏まえ、教育活動の一層の充実を図る～

II 教育目標

人権尊重の精神を基調とし、社会において信頼される人間性豊かな生徒の育成を目指す
「豊かに、たくましく そして 創造的に」

III 経営理念

- 「あい」にあふれる清泉中とする。
生徒と教師の心が通いあい、学びあい、助けあい、励ましあうことを通じて、人とのつながりあいを大切に、互いを高め、成長できる学校

5つの「あい」	愛	・	上	・	合い	・	挨	・	()
---------	---	---	---	---	----	---	---	---	-----

* () の中に、自分の思う「あい」を入れる
- 生徒も教職員も考え、行動する清泉中とする。
- コミュニティ・スクールの利点を生かし、地域の誇りとなる「清泉中」を目指す。
- 学校に関わるすべての者（生徒、教職員、保護者、地域）の考えを互いに聴き合い、尊重しながら、よりよい方策を学校として判断していく。
- 生徒個々の考えや状況をもとに、個々の指導・支援方針を組織として考え、実践する。
- 日常からの基本的な指導の積み重ねと自らの行動を考えさせる指導を重視し、生活の主体者として育成を図る。
- 学級での生活のルールとマナーを考えさせるとともに、生徒のよさを生かしながら、学級・学校の一員としての意識を高めさせるように指導する。生徒の発想や行動を積極的に評価し、生徒の主体性を伸ばす指導として生徒会活動等の活性化を図る。
- 問題行動への対応は、当該生徒の望ましい学校生活への適応のステップとして、保護者及び関係機関と適切な連携を図りながら進める。

IV めざす学校像

生徒にとっても教職員にとっても、さらには家庭・地域にとっても「真に楽しく」、「学び、集いあえる」学校の実現をめざす。

- 1 学校は「成長を実感できる場」である
- 2 学校は「自己実現できる場」である
- 3 学校は「夢や希望をはぐくむ場」である
- 4 学校は「安心して安全に生活できる場」である

*安心感があり安全に学校生活(集団)を送るためには、ルールを守り(ダメなものはダメ)であり
マナー(互いを思いやる心)のある環境を教職員・生徒・保護者・地域とつくりついでいく

- 5 学校は「『意外性』と『多様性』を生かしていく場」である

V めざす教師像 【15歳の生徒の姿に責任をもつ教師】

- 1 生徒一人一人を大切にする教師 (声を聴く、対話から導き出す)
- 2 1時間1時間の授業を大切にする教師(声を聴く、授業の質を向上する)
- 3 生徒・家庭・地域から信頼される教師(声を聴く、自らの背中を範を示す)
- 4 「和」を重んじ、チームのために自己の力を発揮できる教師
(自分の考えを適切に伝える、仲間の声を聴く、意思を統合する)
- 5 清泉中を愛する教師 (清泉プライド!)

VI 令和7年度の重点

※1～5に共通する内容

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">□ 「豊かな」学びの追求・追究□ 「たくましく」生き抜いていくための基礎・基本の力の育成□ 「創造的に」固定概念にとらわれることなく、自らの考えを大切に、既習事項や自らの経験を生かし、行動していく機会の設定 |
|---|

1 学習指導

- 自らの考えを生かす「学び」がある(主体的な学び)
- 「何のために」を意識する「学び」がある(目的意識)
- 個別最適な学びがある(指導の個別化、学習の個性化、ICTの効果的な活用)
- 協働的な学びがある(対話的な学び、課題解決に向けた協働)
- つまずきをチャンスに次の手立てを考える「学び」がある(自己調整力の育成)

2 生活指導・進路指導

- 生徒との対話(非言語も含む)を通じて、生徒理解を深める
- 誰にとっても分かりやすい、丁寧で、明確な指示を心がける
- 規範意識のある自己肯定感、自己有用感を醸成する
- いじめをはじめとする諸問題に対して、見逃し「0」・未対応「0」とする *組織的対応であること
- 主体的に考え、他者と(状況に応じては自分と)の対話を通じて判断し、行動する機会を見守る
- 自分の可能性やよさ(強み)を考える場面がある
- 体験活動や地域人財(材)とふれ合い、学ぶ機会を積極的に位置づける

3 学校経営

- 本学校経営計画を踏まえ、清泉中学校の教職員として、組織的に考え、行動する
- コミュニティ・スクールの利点を生かし、社会に開かれた教育課程を推進する
- 誰一人取りこぼさない教育を実践する
- 障がいの有無に関わらず、特別支援教育を礎として指導・支援を行う
- 「つよいつながり」だけではなく「ゆるいつながり」も意識した学年・学級経営を重視する

4 特別活動

- 自治的活動としての委員会を活性化する
- 生徒が考え、決定し、実行する（守る）活動を重視する
- どの生徒も大切な学級・学校の一員であることを意識できる環境をつくる
- 生徒の「よさ」や強みを生かし、可能性を引き出し伸ばす学級経営や部活動経営を行う

5 その他

- 校内の言語環境を重視する
- 生徒に関わる大人が範を示す（言葉、行動、さらには生き方）
- 教師も「学ぶ」ことを楽しむ（職に関わる自己研鑽だけではなく、趣味も含めて）
- 教師自身の「ライフ・ワーク・バランス」を重視し、日々の授業の質の向上や生徒一人一人に丁寧かつ誠実に向き合うための心身の余裕をもつ。
- 清泉中学校の教職員集団としての「同僚性」を高める（服務事故「0」、新しい学校づくり）

VII さいごに

以上のことを踏まえ、生徒が自分のよさや自分が学級・学校に役に立っている存在であることに気づき、「学校が楽しい」「ここにいていいんだ」という安心感をもち、「笑顔で学校に通う」環境を生徒、教職員、家庭・地域とともに作っていく。そのために、「いじめをしない、させない、許さない」など、「ダメなことはダメ」という学校としての姿勢を明確にするとともに、「対話」を重視し、それぞれの考えや思いを聴きながら、その生徒一人一人の可能性を信じた指導と支援を行っていく。

清泉中に関わるすべての者が「清泉中スピリッツ」と「清泉中プライド」をもてる学校となるよう、努めていく。